

第2回釜石情報交流センター運営検討委員会開催結果

日 時	平成26年2月25日（火）午後2時から午後4時まで
場 所	市役所第7会議室
出席者	次頁のとおり
次 第	以下のとおり
結 果	下記のとおり

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 第1回運営検討委員会の振り返り
4. 釜石市民ホール、情報交流センター設計者について
5. 情報交流センター施設配置案
6. 民間エリア（テナント部分）の活用方法について
7. 意見交換
8. 事務連絡
9. 閉会

第2回 釜石情報交流センター運営検討委員会 委員名簿

〈委員〉

番号	氏名	所属等	備考	出欠
1	佐々木重雄	釜石商工会議所 専務理事	市民ホール検討委員	出席
2	山口里美	RCF復興支援チーム	市民ホール検討委員	出席
3	金野恭子	釜石商工会議所女性会		出席
4	斎藤裕基	釜石東部コミュニティ振興グループ代表	代理:北山文章 副代表	代理
5	小笠原順一	釜石市大渡町商店街振興組合		欠席
6	下村達志	かまいしプラットフォーム	交流センター準備委員会	出席
7	西条佳泰	LiFESTYLE Lab.代表	交流センター準備委員会	出席
8	高橋つね子	エプロンハウスHOT	共同店舗	出席
9	菊池広隆	小島製菓	共同店舗	欠席
10	福土正行	市民公募		出席
11	佐々木愉子	市民公募		出席

〈事務局〉

1	氏原 茂将	
2	釜石市総務企画部広聴広報課	
3	釜石市教育委員会市民文化会館	
4	釜石市教育委員会生涯学習スポーツ課	
5	釜石市産業振興部観光交流課	
6	釜石市産業振興部商工労政課	
7	釜石市建設部都市計画課	
8	釜石市復興推進本部復興住宅整備室	
9	釜石市復興推進本部事務局	
10	釜石市復興推進本部リーディング事業推進室	

<結果>

1. 開会

2. 挨拶

(L室：平松室長) 忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

<今回初参加委員の紹介>

金野恭子委員 (別の会議出席のため途中参加)、西条委員。斎藤委員の代理、北山文章さんを紹介。

3. 第1回運営検討委員会の振り返り

(事務局) 一番意見の多かったカテゴリーは、オーサリングルーム、協働スタジオ。次に交通。担当課である市民課によると、これからの検討次第では実現可能とのこと。施設については、本日意見をいただき設計者に話す。施設名称は、まちづくり会社と協議した上でわかりやすい名前を考えていく。地域の連携は、まちづくり会社、商店街に参加いただき具体的な検討をしていく。

(委員長) 振り返りについて何かないか。

(委員一同) なし

4. 釜石市民ホール、情報交流センター設計者について

(事務局) 2/12 に決定。これから具体的に設計していく。情報交流センターに持たせたい機能等の意見を出して、設計に反映させたい。

5. 情報交流センター施設配置案

(事務局) 資料「情報交流センターの施設配置案①～⑥」に基づいて説明

6. 意見交換

【ラウンジ】

(佐々木委員) 子供が遊べるスペースがあった方がいい。おもちゃがあったり。使いやすいトイレも。

(事務局) 設計者に伝える。

(委員長) 以前の市民会館の時計のある広場のようなイメージか。

(事務局) 日常的にふらっと来られる空間。市民 H には、練習など目的を持って来る人がいて、情報交流 C には目的がなくても暇な時にふらっと来た人がいる。いろんな要素で人が集まる空間を作りたい。

- (委員長) 市民はどういう使い方を望んでいて、どういうものがよいか。
- (高橋委員) ラウンジを使用するには受付必要か。
- (事務局) 受付は必要なく、フリーに使ってもらって良いと考えている。
- (西条委員) 青葉ビルとの差別化を図るべき。ターゲットをしぼることで何を準備していくか決まるのでは。
- (事務局) 市の狙った層がくるとは限らない。役所でターゲットを絞ることがいいのかどうか。自然分化を待つべきか。
- (北山氏) 人は目的を持って場所にくる。目的がなければ集まらない。ただふらっと来るのは、普段その辺を散歩している人か学校帰りの学生くらい。その他の人を集まらせるには目的となりうるものをきちんとセッティングすべき。
- (山口委員) 若者の中には、子供の騒音が気になる人もいるかも。居心地が悪いと思うことをどれだけ減らせるかも大事。
- (下村委員) 子供の空間に関しては、使い方が「ついで」なのか「目的」なのかを決めるべき。青葉ビルは街場の人たちだけが使用している感じ。情報交流 C は市内全域から人が集まるイメージという考え方をしてもいいのでは。
- (氏原氏) 開館時間終始、子供がいるわけではないと思う。時間帯はある程度決まっているので考えすぎなくてもいいのではないかと。子供と若い方との共存は、物理的な区切りでなく運営上でカバーを。
- (山口委員) 最大の過密状態時の不快感をどれだけ軽減するかが大事。区切る必要はないが、動線などは考えるべき。物の配置をうまくすることで、おのずと分けられる。
- (委員長) カフェで買ったコーヒーとライブラリの本を持ってラウンジへ、というのが理想。

【ライブラリ】

- (福土委員) 資料をどう管理するかが鍵。選書、蔵書、棚卸をしっかりとしないと、ただ古本が置いてあるだけで、後々見向きもされなくなる。
- (事務局) 共通コンセプトは、いろいろな人来てもらい楽しんでもらうということ。雑誌レベルを自由閲覧できるのと図書館機能があるのとどちらがいいか意見を。青葉ビルは児童書のみで大人向けはない。ライブラリは、ビジネスマン、IT 機器が手放せないというような層をイメージしているがどうか。
- (山口委員) ライブラリを目的化する必要はない。くつろぎ、待ち合わせの時間をここで過ごすためのツールとしての雑誌。図書館から取り寄せるくらいのことができればいいのでは。並べるものはターゲットにマッチしたものを選ぶべき。
- (下村委員) 企画展示ができる体制があってはどうか。同じものをストックだけしてお

くのは、集客につながらない。

- (福士委員) 企画展示をするにも図書館との連携が必要。リクエストをして別日に本の貸し借りをするのがいい。
- (事務局) 2000冊の本を維持管理するにはそれなりに人も機材もかかる。図書館として位置付けるか、図書館と連携して一部サービスをすべきか。
- (福士委員) 端末さえつながっていれば、リアルタイムで把握できるので、リクエスト受付、貸出、返却受付業務をすることは可能では。PC予約も紙予約も可能。
- (下村委員) 企画展のイメージは、持っているものを展示するのではなく、通常の美術館の企画展のように持っているところから借りてきて展示する。
- (事務局) 図書館の分館と位置付けた方がいいか。
- (高橋委員) 釜石には映画館がないので、ミニシアター的な使い方はできないか。
- (氏原氏) シアター仕様となると開放感をイメージしたガラス部分を少なくしたりといったことが発生し、開放性をあきらめることにもなる。プロジェクタとスクリーンは付けたい。図書館は、特別に著作権、上映権が認められている。一部の映画では、図書館且つ無償であれば、映画上映が認められている。図書館でなければ、映画配給会社にお金を支払わなければならない。

【情報掲示板】

- (福士委員) 意味がわかりにくい。
- (氏原氏) 簡単にいえば、情報を掲示するディスプレイ。フロントエリアだけでなく、市内の様々な情報や商業情報も流すイメージ。120インチくらいを想定。
- (事務局) オガール紫波は40インチ(縦置き)×3枚。
- (西条委員) 津波、緊急地震速報、避難場所への移動案内も提供できる。また、イオンに来たお客を取り込む動線作りにも使える。
- (委員長) 来た人に情報提供するだけではなく、全国に発信するという点では。
- (西条委員) yahooの釜石版のように、イベント情報、ショッピング情報などを釜石に関心があり情報を取りに来る人たちのために作ることも可能だが、情報交流Cのサイネージは自然にキャッチするもの。
- (委員長) 発信する情報を取りまとめるのも大変では。市がするのか。
- (広聴広報課長) 市の方で、情報の効果的な出し方を検討中。
- (西条委員) 行政、民間、NPOが一緒になれば、より広い情報を効率的に発信できる。釜石は、情報発信があまりないと感じる。
- (氏原氏) この場に広告を有料で出すということに、市内で商売をしている方は前向きか。広告に対する考え方は。
- (北山氏) 今までは、ポスティング、割引券、招待券、県交通バスでの広告、IBCの安いCM枠、地元新聞(東海新聞、釜石新報)への掲載。一番の効果は新

聞。情報交流 C に来た人にしか発信できない広告にお金をかける事業者は
いないと思う。表を歩いている人、車で通った人も見られるようであれば
少し違うが。

- (高橋委員) ロコミも重要。共同店舗に入るテナントにとっては効果があるかなとも思
う。
- (下村委員) 何かを待つ時間とかに広告を目にする。車生活では難しい。バスを待つ時
間とかがあればまったく話は変わると思う。
- (山口委員) バスの接近情報とか。
- (下村委員) 今後の世の中の流れを考えれば、情報交流 C と呼ばれるところにデジタル
サイネージがないというのはありえないのでは。置くことを前提に、どう
使うかを考えた方がいい。

【受付カウンター】

- (北山氏) 印鑑証明や住民票がとれればいい。来る目的になる。
- (高橋委員) 何人くらいカウンターに入るイメージか。
- (氏原氏) 2人くらいは必要ではないか。
- (事務局) 青葉ビルのカウンターに人はいない。管理人はいるが。
- (委員長) まちづくり会社の本社はここに置くのか。
- (事務局) 情報交流センターへの事務所設置を想定している。

【ワークスペース】

- (福土委員) ここを使うであろう団体やサークルなどにヒアリングしたか。
- (氏原氏) いくつかの団体にヒアリングした。青葉ビルが現在大変混雑していること
もあり、情報機器を置いた会議スペースは必要。20名会議室を想定。
- (北山氏) 20人では小さい。100人規模希望。
- (氏原氏) ラウンジを貸し切るという方法はどうか。
- (委員長) フリースペースのラウンジを1団体が貸し切るとクレームになるのでは。
- (事務局) 青葉ビルは駐車場がない。
- (山口委員) 青葉ビルとホテルの間の価格帯の貸会場がない。個人使用で、がやがやし
たラウンジではなくワークスペースで仕事をする場合の価格設定大事。価
格設定で利用率が変わるのでは。

【市民協働スタジオ】

- (山口委員) 基本的には必要ないと思っている。強いて言うなら大事にすべきは映像関
係ではなく、音楽関係では。広くない情報交流 C のなかで、あれもこれも

的な感じがあり、機能をスリム化すれば、ライブラリや受付業務を軽減できるのではないか。初心者から専門家までカバーしたいとのことだが、誰が使うのかイメージできない。情報交流 C ではなく市民 H の方にあった方がいいのでは。

(北山氏) この構想は市民の要望なのか。

(事務局) 人が集まるには何が必要かと考えたときに発生した。

(氏原氏) 音楽製作において、録音作業と編集作業は別の空間ですもの。全国に同じような施設があるが、全てにおいて機材を把握しているかというところでもない。

(北山氏) 機材、ソフトを維持する経費は大丈夫なのか。中途半端なものを置くのは無駄になるのでは。

(下村委員) 音響関係の業者にテナントで入ってもらってビジネスをしてもらう手もあるのでは。

(福士委員) 読み聞かせ、民話語り部、朗読奉仕の方たちの記録する場となれば利用頻度が安定すると思う。使う人がいないからいらぬではなく、記録に残していくという意識を持たせる場として設けると認識していた。需要の掘り起こしを。

(事務局) 物やスペースの貸出だけでは誰も使わなくなる。イベント開催や記録の蓄積の場所、そのための機材を置くことが第一。ただどこまでの機材を置くか。みなさんの意見を踏まえて検討必要。

6. 民間エリア (テナント部分) の活用方法について

(事務局) 物販以外で人を集められる使い方はあるか。

(金野委員) 維持管理も大変なのでテナントを入れて収入を得た方がいいのでは。

(下村委員) コンビニ。イベントにきたお客をどこでさばくのか。周辺商店街との連携も必要だが。市役所にテナントで入ってもらい、姉妹都市などのアンテナショップのようなものを展開とか。ペット同伴、ペット雑貨のようなテナントとか。

(委員長) 会議室としての利用はどうか。

(北山氏) 市民 H ができるまでの 3 年間のために、何かを作るのはどうか。無駄のないような利用方法にしたい。

(事務局) このテナント部分ありきで考えるのではなく、全体的にゆとりを持たせて、情報交流 C 全体をコンパクトにし、バックヤードを増やしたり、ちょっとした駐車スペースを設けるとか、カフェ前をきれいにするとか、いろいろな面積の使い方がある。必ずしも 300 m²の箱を作らなければならないということではない。

【その他】

(福士委員) 市民 H と情報交流 C との間に屋根をかけてほしい。

7. 事務連絡

(事務局) 皆さまの意見をもとに基本設計を進める。次回は、①建物を作るのにいくらかかるのか、維持するのにいくらかかるのか、コスト面の説明②設計者との意見交換の場③ミッフィカフェについての意見交換。今年度は今回で終わり。次回は新年度早々をお願いしたい。

8. 閉会